

農業委員会だより



INDEX

特集 夢農人（ゆめノート）	2
TOPICS／話題	6
建議書	8
編集後記	8

発行 / 豊田市農業委員会

TEL 0565-34-6639 FAX 0565-33-8149
Email: nousei@city.toyota.aichi.jp

企画 / 農業委員会だより編集委員会

「荒廃農地」の現地調査に汗を流す農業委員

豊田市内の「荒廃農地」（耕作放棄地・遊休農地）は、実に全農地の16%（約1,800ha）にまで及んでいます。平成20年度から、毎年こうした荒廃農地の現地調査を農業委員が行っています。その結果、荒廃農地の現地調査図ができ、全体の状況が詳しく把握できるようになりました。平成25年度からは、荒廃農地の中から、本来の農地に復旧できるかどうかを見定める調査に取りかかりました。複数の農業委員の知見により偏りのない判断をして、すでに山林化した農地などは、非農地通知により地目変更を指導しています。重要なことは、本来の耕作される農地にすることですが、それには多くの課題があります。平成25年度から耕作に向けた指導通知を行ったり、農地バンク制度活用などにより荒廃農地の解消に努めています。今後も継続した活動を行う予定です。

写真は、気温が34度を超える猛暑の中、足助・栃本町地内で現地調査をする足助地区の農業委員です。
（文・写真 / 横糸鈞委員）



①こだわり梨園②乙部町③梅村紀人(38歳) ④梨専門(8~12月まで直売)、スーパー完熟梨が特徴 飲食店経営(ランチ・ディナー)



①チャーリー's ガーデン②稲武町③西尾昌直(34歳) ④鉢花、花苗の生産、オリジナル品種を育成



①大橋園芸②篤鴨町③大橋鋭誌(38歳) ④各種野菜・水稲が主力。レストランも経営



①(有)大地 まねぎねこ②竜神町③石川正俊(49歳) ④麦・水稲自家生産品を使ったパン・焼菓子



①(有)佐久間養鶏場②浄水町③佐久間和彦(56歳) ④気温や産卵率を考慮して餌を配合しています



①久保田牧場②上原町③久保田健一(42歳) ④牛乳や肉牛を生産する傍ら、酪農ファームとしても活動



①加藤洋らん苑②福受町③加藤宏樹(41歳) ④オリジナルな蘭と野菜を作っています



①近藤果樹園②みよし市三好町③近藤人史(35歳) ④梨・柿を栽培、8~12月まで出荷



①(有)はっぴー農産②四郷町③黒野貴義(33歳) ④米と桃の生産販売、RCにて乾燥粉摺り受託



①宮澤養鶏園②花本町③宮澤勝典(45歳) ④健康第一の設備環境から食べて分かるおいしさの提案



①トヨタファーム②堤本町③鋤柄雄一(44歳) ④小麦主体のエコフィールドを給餌した三州豚を生産



①関谷醸造(株)稲武工場②黒田町③代表/遠山久男(55歳)
④オーダーメイド酒の受注、酒造り体験ができます



①農業生産法人 株式会社 中甲②前林町③代表/杉浦俊雄(47歳)
④高岡の農地の維持・管理を目的として米・麦・大豆・野菜を栽培



①農業生産法人みどりの里②栄生町③野中慎吾(33歳) 野中浩美(35歳) ④米・イチゴ・野菜・ブルーベリー 肥料と農薬を使用しない自然栽培



①mama's農園②柗塚東町③道岡美香子(42歳)
④米・麦・大豆を生産。お米ジェラートも商品化

■若手プロ農家集団

平成22年9月に発足した、20代から40代を中心とした若手プロ農家の集団が「夢農人とよた」(ゆめノート・とよた)です。今年で3年目を迎え、現在31戸の農家が参加しています。稲作・果樹・露地野菜・園芸・畜産など、様々なスペシャリストが揃っています。

■設立趣意書に語る

『きつい、汚い、格好悪い』とされる農林漁業を若者が敬遠し、就農しないため、農家の高齢化が加速し、耕作放棄に繋がっています。そして、農家はなによりも大切な「誇り」を失っています。今や絶滅寸前の我々農家は、ただ待っているだけでは何も変わりません。生き残るためには、安心・安全はもちろん、品質にも責任を持ち、地産地消に繋がる顔の見える販売体系を構築する必要があります。農業革命をこの豊田から、そして夢農人から起こしたい。』

■「夢農人の願い」より

『豊田は世界に誇るものづくりの町で知られています。そんな豊田にも、実は素晴らしい農産物があるという情報発信をし、農業や食に対する我々農家の思いを具現化することで、市民の皆様により深く理解していただけるものと確信しています。我々の作る農産物を積極的に食べて頂き応援して頂きたいと思えます。』



農業に夢を持ちたい。 未来を農業に託したい。 人の力と繋がりを信じて！

【農家紹介の説明】

- ①屋号・会社名
- ②所在地
- ③生産者名/年齢
- ④特徴

31戸のプロ農家が力を合わせています。豊田市とみよし市の、意欲ある農家の集まりが「夢農人とよた」(ゆめノート・とよた)です。

「夢農人とよた」のメンバー全員を紹介します。あふれる若さとエネルギー、これが魅力です。農業経営に新風を吹き込み、これからの農業を担う力強い存在です。



①NPO法人 Earth as Mother 農事業部②藤岡地区他③代表/市川真大(31歳) ④自然循環法の米、古代米、大豆、無農薬野菜多数

①倉橋園芸②広美町③倉橋幸嗣(28歳) ④シンビジウム専作、アーチ型仕立てに力を注いでいます



①もものみせ ②羽布町 ③高田浩倫(38歳) ④幻の緑米(古代米)を使ったおいしいお餅です

①水耕房いなぶ②御所貝津町③安藤真也(27歳) ④県内初の白い芽生にんにくを栽培。新規就農です

①はせがわ農園②亀首町③長谷川洋史(37歳) ④桃・梨・柿、7~10月まで直売所にて販売

●**鋤柄** 米国で2年間養豚の勉強をしましたが、ここで農業への視点が培われました。精神的な風土として、農業が神の次に大切な職業として位置付けられていることには勇気づけられました。私の農業に対する姿勢の原点ともなりました。また、農家は単なる生産者でなく経営者であると考えている事も参考になりました。これらを基盤に、豊田で農家の存在力を高めようとしたのが「夢農人」です。私たちの農産物は常に消費者に伝わる、あるいは支持や理解されるものでなければと思っています。組織運営でも消費者との関係を重要視しています。

対談 **夢農人** YUME NOTE を語る



大橋鋭誌さん



石川龍樹さん



鋤柄雄一さん

●**大橋** 一人一人は点としての存在ですが、横のつながりを持ち、面となれば大きな力を持ちます。夢農人の存在はまさにこれですよ。一人の農家の行動を通じて、面拡大をし、互いの情報交換と協力で、自分の力量というか存在を超えた大きなメリットの享受ができるように思います。私は主に自家産農産物を使ったフランス料理店を経営するようにもなりましたが、これも夢農人との関わりの中の自然の成り行きだと思っています。苗農家であったところもあり、最終的には消費者の口に入るところまで手がけたいと漠然と思っていました。シエフとの出会いも含めて夢農人が契機です。「これって、なれ」と言っていることかな！」と、天の力を感じますよ。

●**石川** お茶の生産と販売を稼業にしていますが、経営の厳しさもあり農業への危機意識が高まっていました。こんな時、鋤柄さんと大橋さんに誘われ夢農人に入ったわけです。活動してみても本当に良くなりましたよ。メンバー同士の相互協力と言うか、課題解決や販路拡大にも仲間の情報や支援が大いに役立ちました。消費者との対面販売重視により、仕事の喜びも見い出しています。組織の中では、食育指導を担当していますが、例えば中学校では「達人の話聞く会」のような形で農業の素晴らしさを伝えていきます。子供達には、現場体験で本当の農業が実感できる指導を心がけています。



①四季彩農園②川面町③川口哲也(47歳)
④水耕栽培で薬物野菜を生産



①池ヶ平牧場②大野瀬町③新美智成(36歳)
④環境と餌にこだわった名古屋コーチンを飼育しています



①くらら農園②林添町③安藤源(31歳)
④安心安全でおいしいものを作っています



①ながた農園②汐見町③永田岳志(40歳)
④苺専門。デザートでなく食材として苺を提案



①碧園 お茶の純平②吉原町③山内祥正(46歳)
④こだわりの手摘み抹茶を挽きたてでお出します



①なのはな農園(株)②花丘町③梅谷岳志(40歳)
④安心安全な菜種栽培と関連商品販売



①山本ぶどう園②みよし市打越町③山本哲之(58歳)
④ぶどうの直売(8月中～9月中まで)



①谷澤牧場②榎塚西町③谷澤晃美(40歳)
④肉牛(黒毛和牛)肥育



①ビービーファーム②堤本町③加藤成人(41歳)
④蜜源を自分で確保できるよう努力



①いしかわ製茶②豊栄町③石川龍樹(34歳)
④上郷・下山地区で、主に有機栽培茶を生産



①のらしごと②市木町③内田充(39歳)
④糖度13度の甘いねぎを生産

TOPICS

農業の話題
あれこれ

フェイスブック 始めました

豊田市の地産地食を応援する情報を発信して、農産物の生産者と消費者の距離を縮めるため、豊田市産業部農政課ではフェイスブックを開設しました。主な情報として、市内で採れる旬の農産物情報やスイーツフェア、品評会などのイベント情報を掲載しています。

市役所農政課ホームページから、「地産地食応援フェイスブック」おもしろいとよたを召し上がれ〜」にリンクが貼られています。ぜひ、一度訪れてご覧ください。



▲平成25年9月26日に紹介されたフェイスブックページの事例です。

県内初の フルーツ酒特区 認定を受けました

豊田市は、平成25年3月29日に「豊田市フルーツ酒特区」として、県内初となる認定を国から受けました。

この特区認定により、市が指定した果実で、市内で生産されたものを原料とし、市内の自己の製造場で製造することを条件に、酒類の製造免許の要件のうち酒税法第7条第2項（最低製造数量基準Ⅱ年間6kl）の規定が緩和されます。

指定された特産果実は、ブドウ・モモ・ナシ・イチジク・ウメ・カキ・ブルーベリー・イチゴ・スイカの9種類です。

□注意事項

特区に認定されたことにより、製造免許がなくても果実酒、リキュールを製造できるわけではありません。必ず所管の税務署長に製造免許を申請し、許可を受ける必要があります。

□製造までに必要な手続き

- ① 製造免許の取得
- ② 酒税の申告納税等酒税法関係の手続き
- ③ 食品衛生法等による酒類製造業の営業許可

□フルーツ酒特区に関するお問合せ

市役所農政課（☎34-6640）へお尋ねください。



▲おいしいパンの秘密は、小麦をベースに玄米を加えて作った天然酵母です。この天然酵母が味を良くします。

自家産小麦使用の 特製パンが特徴

竜神中学校の近くに天然酵母と厳選素材を使用した豊富な種類の焼きたて手づくりパンの店「まねきねこ」があります。まねきねこのパンの特徴は、自家栽培の小麦（ユメシホウ）を使用しているところにあります。店長の石川正俊さんは、「食べて健康になれば物を考え、おいしいパンがさらに作れるようになる」と話されており、付加価値をいかにつけて商品を開発していくかにこだわりをもたれています。

また、シュークリームやシフォンケーキ、バウムクーヘンにも豊田産の食材が使われており、地産地食を実践した商品となっています。詳しくは、まねきねこ（☎0565-28-2100）へお尋ね下さい。

（取材 都築猶之委員）

なのはな農園 全国農業新聞賞受賞

平成25年6月4日、愛知県水産会館にて、「なのはな農園株式会社」に第5回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業の全国農業新聞賞の伝達が行われました。

代表の梅谷勝利さんは、経営規模の拡大と6次産業化に重点的に取り組むため平成23年2月に会社を設立し、耕作放棄地の再生を中心に圃場面積の拡大を進めています。「100haの経営農地」を目指して毎年5haの耕作放棄地の再生事業に取り組んでいます。平成23年2月からの1年間に再生した耕作放棄地は8.2ha、その他全体で約50haの農地を借り入れ、自然環境にやさしい循環型農法により菜種を栽培しました。収穫した菜種を利用した「豊田・加茂のなのはな油」の販売のほか、国内初となる「なのはな醤油」の商品化にも成功し、さらなる農業の付加価値化に取り組んでいます。



▲受賞伝達を受ける梅谷さん。全国で31団体、愛知県では1団体のみです。



▲有機栽培の南高梅は人気。手入れにも愛情をこめて育成する可児勉さん。梅狩りなど、電話で予約すれば確実です。

無農薬有機栽培で好評の梅農園

今年も6月7日から7月7日まで、西萩平町の可児農園で梅狩りが行われました。今年400人以上が梅狩りに訪れ、遠くからは長野県や東浦からも訪れました。18年前から梅の栽培をはじめ、最初は12本だった梅の木も、今では2haの農場に250本ほどの梅の栽培をしています。有機栽培の無農薬で育てられ、消毒しないように心がけています。それは、常日頃健康に人一倍気をつけた生活をされているので、食べて健康になれるものを作りたという願いから来ているものです。また、農場は、梅とり兼悩み事相談の場所ともなっており、憩いの場として活用されています。



▲平成24年に整備された足助の大河原町地内の緩衝帯。補助額は内容で異なりますが、ここは23万2千円です。

「緩衝帯整備」で畑を守る

梅以外にも9月頃には栗、10月頃には柿の収穫も体験できます。電話予約必要、詳しくは可児農園(TEL0565-65-2863)へお尋ねください。

(取材 土屋靖示委員)

緩衝帯整備という言葉を知ったことがありますか。緩衝帯整備とは、山林と農地の間に見通しのよい環境(緩衝帯)を整備することで、警戒心の強いイノシシ、シカなどの野生獣の身を隠せる場所を減らし、農地へ出没しにくくさせるといふものです。

集落ぐるみで実施する農地周辺の藪・下草の刈払い、森林・竹林の伐採、放任果樹の伐倒除去などの整備費用補助を農政課で行っています。実際に、緩衝帯整備を実施

された足助地区在住の月山さんは、「緩衝帯の手前でイノシシは止まり、畑への被害が少なくなっているようです。稲穂の季節に真の効果が出てくるのを期待しています。」と話されていました。

詳しくお知りになりたい方は、市役所農政課(TEL34-6640)へお尋ねください。

(取材 小林学委員)



▲堀田畜産では養豚から加工まで責任を持って経営。美味しい肉質には、こだわりを持つ3代目堀田秀樹さん。

養豚ひとすじ 自家産豚肉を委託加工の取組み

猿投山麓の西広瀬町小麦生(こむぎお)に、堀田秀樹さん経営の「有限会社堀田畜産」があります。

入口から、豊かな自然の林の中に立つログハウスがまず目に入ります。これは、養

豚場の事務所兼憩いの場所だそうです。その奥に合理的に配置されている畜舎が6棟並んでいて、外からはここに畜舎があるとは分からないほどです。

自宅のある深田山地区(柿本町)で、祖父の茂さんが昭和25年から始めた養豚農家が今日まで60有余年続き、秀樹さんは3代目。当時、深田山地区には21戸の養豚農家があり、市内有数の養豚地区でした。

2代目の父・望さんは、養豚業とともに家畜の人工授精師の資格を生かし、授精師としての仕事もされておられました。しかし、トヨタ自動車元町工場の操業とともに、周辺は市街地へと大きく変貌していききました。そのため、養豚経営には不向きとなり、2度の移転を経て、昭和61年に現在の西広瀬町地内に経営を移されました。移転後も、環境への強いこだわりを持って、周辺環境と調和した養豚場整備を行っておられます。また、経営もリサイクル飼料を使用するなどコストダウンに取り組みされています。現在では、豊田市内に3軒しかありません。現在では、1軒になっています。

数年前から自農場で生産される豚肉をハム・ソーセージなどに委託加工しています。この農場で加工された加工品をご賞味してください。直売店は岡崎市にある「稲垣腸詰店」です。きつと大ファンになると思っています。現在、農業の6次産業化が注目集まっていますが、その先がけとして、堀田畜産は取り組みを始められました。

(取材 石川範明委員)

豊田市の農業委員は次の皆さんです

【平成25年度 敬称略・順不同】

地区	氏名	住所
孝母	光輪 龍雄	樹木町
	水野 勝彌	東梅坪町
	石川 範明	柿本町
	板倉 速雄	今町
上郷	岡田 善明	福受町
	佐藤 家三男	鴛鴨町
	成田 悟	畝部東町
高岡	清水 雅洋	永覚町
	都築 猶之	中町
	花井 靖雄	駒場町
猿投	中野 政好	前林町
	杉本 久	上丘町
	安田 稔生	若林西町
	前田 文雄	西岡町
	稲垣 壽男	花園町
	岩月 幸雄	宝町
	奥村 八千子	荒井町
	赤川 学	加納町
	内田 道広	浄水町
	吉田 修次	上原町
高橋	梅村 源次	藤沢町
	鈴木 正人	大畑町
	横桑 鈞	保見町
	安藤 加代子	井上町
	鈴木 正幸	野見町
松平	梅田 仁一	平井町
	柴田 釦義	市木町
	今井 靖	百々町
藤岡	宇野 金造	中垣内町
	大橋 鋭二	松平町
	伊藤 矢須子	岩倉町
小原	中村 正寿	西中山町
	山内 昭一	木瀬町
	山田 主成	西中山町
足助	尾形 戦一	永太郎町
	土屋 鎬示	西細田町
	原田 鈔治	綾渡町
下山	高橋 鎮	下国谷町
	加納 一範	怒田沢町
	小林 学	四ツ松町
	鈴木 博	栃ノ沢町
旭	中根 清茂	花沢町
	荻野 正昭	黒坂町
稲武	渡邊 実	万町町
	近藤 清	余平町
	吉原 克己	黒田町
	塚田 光生	押山町

■農業委員に関するお問い合わせは
農業委員会事務局
電話 34-6639



持続可能な営農環境の確立を目指して

「豊田市の農業の振興に関する建議書」を太田市長に建議

■平成25年2月18日、豊田市農業委員会から、農業委員が日ごろの活動の中で把握した課題や、地域の農業者から聞いた意見・希望等をまとめた建議書が、豊田市長に手渡されました。豊田市の農業振興施策に活用していただくためで、平成23年1月に続く第2回目の建議になります。

■建議の内容は10項目に渡っています。項目と主な内容の一部を紹介します。

- ① 農業振興策の実施
農産物のブランド化など農産物の市場価格を高め、農家の所得向上を図る。
- ② 国内農業を守る政策の堅持
農産物の輸入自由化交渉等で、農業者や消費者の声に十分配慮すること。

- ③ 高齢化対策・担い手育成
- ④ 中山間地の農業への支援
- ⑤ 耕作放棄地対策
農地バンク制度の活用など多様な農地活用の推進を図る。
- ⑥ 農地の環境整備と保全
土地改良事業の推進と農業環境の保全
- ⑦ 鳥獣害対策
- ⑧ 地域特性に応じた農地規制
守るべき農地と開発とのバランスのとれた施策の展開

- ⑨ JAとの連携による農業者支援の推進
- ⑩ 人・農地プランの推進
平成24年策定の「人・農地プラン」に基づき地域営農体制の推進

編集後記

今年も、農業委員会だよりをここに発行することができました。

今号の目玉は、何といっても「夢農人特集」です。これからの豊田市の農業を発展させていく若い力が集まった団体です。若い力と経験豊富な皆様が互いに助け合い協力していくことで、豊田市の農業はさらに発展していくことだろうと感じました。

また、自らの仕事に誇りを持ち、おいしいものを食べてもらいたいという思いが伝わってくる農家の皆様をここで紹介できたことは大変うれしく思います。

これからも農業の魅力、そして農業に携わる人々を紹介していきたいと思っております。耳寄りな情報がありましたら、ぜひ農業委員会事務局までお知らせください。

(編集委員長 都築猶之)